

ちえふくらう



〒108-0014 東京都港区芝 5-27-5

NPO法人 人生まるごと支援

TEL 03-3453-6210

FAX 03-3453-6208

【最期まで住み慣れた自宅で①】

95歳おひとりさま女性Hさんですが、抗がん剤が効かなくなり、がんの活動を抑えることがむずかしくなりました。

主治医とも相談し、大学病院での診療を一旦終え、緩和ケアに移行することになりました。

Hさんは口腔がんのため、以前のように食事がとりにくくなりました。それでも大好きなまぐろのお寿司を、すり鉢を使って、すりこぎ棒でトントンしながら上手に召し上がっています。

しかし食事は徐々に少なくなり、同時に、足のむくみが増え、ふくらはぎから膝へ、膝から腿へとむくみが広がっています。医師からは「今はアルブミンの数値が下がっていて(低栄養の状態)利尿剤が効きにくく、むくみを抑えることが難しい、方法としてはエンシュア等、高たんぱく、高カロリーを摂取して、利尿剤の効果を上げていく・・・」とお話がありますが、Hさんはエンシュアは苦手なようです。

同時に胸水も増え、在宅酸素が必要になりました。主治医からは「一般的に今の状態で、同居家族がなく、日中夜間とおひとりで暮らされるのは、本人の不安と同時に、支援者の不安もあるので、施設への入居を考える必要がある」と。しかしHさんは『自分が建て、何十年と暮らした自宅が何よりも居心地がよい』と仰られ、在宅での

暮らしを続けることにしました。現状でも、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問ヘルパーと、サービスはしっかりと入っていますが、それ以外の時間帯はおひとりになるので、Hさんが安心できるような見守り体制を準備することにしました。

医師からは「現時点のHさんの状態では、看護師が24時間付き添う必要はありません。三国さんでもNPOのスタッフの方でも、Hさんが夜中につらさを訴えられた際は、まずは電動ベッドを起こして、呼吸しやすい姿勢にする、また在宅酸素を鼻からのチューブを口からのマスクに変更、必要があれば酸素レベルを上げる等行い、それでもHさんが辛そうであれば、訪問看護ステーションの夜間緊急に電話をしてください」とのことでした。

医療保険や介護保険で24時間の付き添いはできないので、自費サービスが必要になります。費用は掛かりますが、Hさんの「自分の持っているお金で足りるのであればお願いしたい」の希望を伺い、チームを集い、ヘルパーさんが入られる時間を除いて24時間のシフトを組みました。

スタート初日は三国が泊まります。朝5時45分にリビングとキッチンのカーテンを開け、空気の入替えをして、トーストとコーヒーとヨーグルトの準備をしますが、はたしてうまくいくのでしょうか？

三国浩晃